

令和元年度 学校評価アンケート結果・学校関係者評価結果を踏まえた学校評価のまとめ

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組, 手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方策)
学校経営	1 チーム学校としての保護者・地域・外部機関との連携を強化する。 2 学校における働き方改革を推進する。	①-1 ホームページをとおして適時性の高い情報発信を行う。 ①-2 本校の部活動活動方針及びこれに基づいた各部活動の活動計画を広く公開する。 ②モラルアップ委員会を活用し、スクラップや縮小が可能な業務リストを年度内に作成する。	1-1 保護者アンケートにおけるホームページの項目で肯定的回答75%以上を達成したか。 1-2 ホームページの掲載内容と更新状況。 2 スクラップ業務リストの作成状況。	①-1 本年度、ホームページで修学旅行の現地の様子を報告するなど、積極的に情報発信したのが好評だった。ホームページに関するアンケートの結果も70%程度の肯定的回答があり、以前よりも伸びてはいるが、さらに改善の余地がある。 ①-2 部活動の活動方針を4月にホームページで公開し、保護者の間でも理解を得られてきた。 ②モラルアップ委員会がKJ法を用いて働き方改革に係る研修を行った。また、その結果をまとめたものを全職員に配布し、職員の働き方改革への意識高揚を図った。	①-1 部活動等で各職員が自発的に情報発信できるように、ホームページに記載する実際の手順について研修を行う。 ①-2 活動方針策定によって変化した部活動の結果を検証し、大会成績や生徒の学習及び職員の働き方にどう影響したかを精査する。 ②業務のスクラップについては、具体的なアイデアが少なく、リストの作成までには至らなかったが、来年度はスクラップ及び縮小可能な業務に焦点化して研修を実施したい。	①-1 ホームページの更新状況が素晴らしい。 今後も継続して学校の情報発信に努めてほしい。 ①-2 部活動の活動方針を策定し公表したことは非常に評価できる。各部活動がその方針に従ってやっているかの確認が必要である。 ②最近教職員の働き方改革の話題をよく耳にするが、そのことへの取組が最終的には学校の教育力向上へ結びついてほしい。	①-1 ホームページでは、部活動の情報をもっと発信してほしいとの要望がある。係など一部の職員ではなく、全職員が情報発信できるように具体的手順を周知していく。 ①-2 各部活動の活動状況及び大会成績、学習状況、職員の業務改善についてまとめたものを作成し検証する。 ②業務改善についてさらなる取組を実施するとともに、業務分担の組織化を図り、特定の職員や分掌に業務が集中しないようにする。
学習指導	1 「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善を行う。 2 基礎基本を重視し、文章や情報を正確に読み解く活動を推進する。	①-1 生徒による授業評価アンケートを実施する。 ①-2 授業公開を年度内に2回実施する。 ①-3 学力向上委員会による授業力向上研修を実施する。 ②学びの基礎診断の測定ツールを活用して、学習課題と指導改善のための工夫を明確化する。	1-1 生徒アンケートにおける思考力・判断力・表現力の項目で肯定的回答80%を達成したか。 1-2 保護者アンケートの基礎的・基本的学力の項目で肯定的回答90%を達成したか。 1-3 授業力向上研修の実施状況。 2 学びの基礎診断を活用したPDCAサイクルが実施できたか。	①-1 学力向上委員会による授業評価アンケートを実施した。 生徒による学校評価アンケートでは、思考力・判断力・表現力の項目での肯定的回答の割合は63.4%であった。 ①-2 授業公開を2回実施した。保護者アンケートの基礎的・基本的学力の項目における肯定的回答の割合は73.4%であった。 ①-3 授業力向上研修を11月に実施した。研修内容をすぐに実践する職員も多く、充実した研修になった。 ②学びの基礎診断測定ツールを活用し、分析及び改善方策について職員間で共通理解を図った。	①-1 委員会による授業評価アンケートは継続して実施したい。 知識偏重型授業から脱却し、思考力・判断力・表現力を育成する授業改善に向けて、さらに意識改革が必要である。 ①-2・3 授業力向上研修で学んだことを活かして授業改善に取り組むだけでなく、そのことが生徒の学力向上に結びついたかどうかの検証を行うことによって、保護者にも成果がわかりやすくなると思われる。 ②アンケートの家庭学習の項目で肯定的回答の割合が低い。教科を超えた枠組みでの検討が必要である。	①-1 生徒による授業評価アンケートは絶対に必要である。 是非生徒の授業満足度を上げられるよう工夫してほしい。 ①-2 授業中の生徒の表情が非常に良い。教師との関係ができてきている証拠である。 ①-3 アンケートの「社会力」についての項目で肯定的回答の割合が思うほど高くない。社会力についての理解がさらに必要である。 ②授業のICT化も叫ばれているが、チョークだけで職人技のような素晴らしい授業を行っている先生もいる。根本的な授業力について考える必要がある。	①-1 アンケート項目も含めて、来年度も生徒による授業評価アンケートを学力向上委員会で実施したい。 ①-2・3 親和性も含めた授業力向上へ向けてさらなる研修を実施するとともに、「主体的・対話的で深い学び」とは何なのかについても、職員で意見交換し共通理解する機会を持ちたい。 ②学びの基礎診断ツールで分析した結果、その改善方を具体的にどう授業等に取り入れるかが少し不透明である。各教科及び学力向上委員会で検討する機会が持てるようにしたい。

領域	重点目標	具体的方策 (具体的な取組, 手立て)	評価項目・指標 (評価方法・評価基準)	自己評価の結果 (達成状況, 結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善方策)
生徒指導	1 いじめのない学校づくりを推進する。 2 生徒のセルフコントロール力を向上させる。	①-1 教育相談・支援委員会による「生活状況調査」を実施する。 ①-2 個人面談を実施する。 ①-3 「学校いじめ防止基本方針」を周知し、いじめを許さない環境づくりを行う。 ②生活指導委員会、道徳教育推進委員会を活用し生徒の自律を促す。	1-1 「生活状況調査」の結果の分析・活用状況。 1-2 個人面談の結果の活用状況。 1-3 生徒アンケートのいじめ防止の項目で肯定的回答70%を達成したか。 2 生徒アンケートのルール・マナーの項目で肯定的回答95%を達成したか。	①-1 「生活状況調査」を実施し、教育相談・支援委員会で分析・共通理解を図った。 ①-2 各担任による個人面談を実施し、進路希望だけでなく、生徒の生活状況の理解・相談に活用した。 ①-3 「学校いじめ防止基本方針」を改訂し、ホームページで広く公開した。生徒アンケートのいじめ防止の項目における肯定的回答の割合70%以上を達成した。 ②生徒アンケートのルール・マナーの項目では約90%の肯定的回答であったが、特別指導の案件が例年より多く、生徒に自覚を促す必要がある。	①-1・2・3 重大ないじめ案件は今年度認知されなかったが、未然防止・早期発見・早期解決に向けて職員のアンテナを高く保てるように、機会があるたびに意識高揚を図りたい。 ②特にSNSの利用マナーで、セルフコントロールできていない実態がある。インターネットの適切な使用方法について継続して指導する必要がある。	①-1・2・3 学校評価アンケートの項目の中に、「いじめ」に関するものがあるのは非常に良い。職員と生徒・保護者の肯定的回答の割合に多少乖離が見られる。 ②言っても改善されない場合にどうするかについて考えなければならない。	①-1・2・3 生徒アンケートのいじめ防止に関する項目で肯定的回答の割合を伸ばすために、相談窓口の周知徹底、SOSの出し方指導についてさらなる取組を行う。 ②情報モラルを含めて、教科・生徒指導・道徳教育等あらゆる場面で考え、議論させながら指導を徹底する。
キャリア教育	1 高大接続改革への対応を推進する。 2 個に応じたキャリア教育を実施する。	①-1 大学入試制度改革に対応すべく、定期考査の回数を変更する。 ①-2 夏季休業中の補講、個別キャリアガイダンスをととした積極的な支援を行う。 ②総合的な学習(探求)の時間を活用し、外部講師による講演会や進路ガイダンスを実施する。	1 定期考査及びそれに関連する内規変更の状況。 2-1 ガイダンスの実施状況。 2-3 生徒アンケートの進路指導の項目で肯定的回答70%を達成したか。 2-4 進路講演会の実施回数。	①-1 来年度から定期考査の回数を変更し、そのことに対応した行事や内規の検討が終了した。 ①-2 夏季休業中の補講及びガイダンスは予定通り実施できた。 ②進路関係の講演会等を予定通り実施できた。また、生徒アンケートの進路指導の項目で肯定的回答の割合70%以上を達成した。	①-1 行事等については、今年度検討した形で次年度実施し、終了後総括して再度検討を行う。 ①-2 保護者や生徒へのガイダンスをさらにきめ細かく実施するとともに、進路補講の充実を図る。 ②生徒アンケートによると、進路関係の項目の肯定的回答の割合は、年次進行とともに低くなっている。このことについて、原因の精査と対策の検討が必要である。	①-1・2 大学入試制度改革については、急な変更等もあり、現場は混乱したことは思うが、個別のガイダンス等も行いながら適切に対応できたことは評価できる。 ②今後も外部機関と連携しながら継続して講演会等を行ってほしい。	①-1・2 来年度も入試制度の動向に注視しつつ校内の体制及び年間計画についてもPDCAサイクルによるマネジメントを行う。 ②今後も継続して講演会やガイダンスを実施しつつ、生徒の進路指導満足度をさらに向上させる方策を検討する。
特色ある教育活動	1 文部科学省「実践研究協力校」、千葉県「英語教育拠点校」事業をととして英語指導力向上を図る。 2 ユネスコスクール、ESD部会の活動及び組織的な国際交流活動をととして、生徒のグローバルな視点を育成する。	①-1 文部科学省教科調査官及び近隣の学校の教職員からの助言・感想を基に、PDCAサイクルによるマネジメントを行う。 ①-2 今年度研究テーマ「CAN-DOリスト」を改訂する。 ②-1 ユネスコスクールの加盟校として、積極的に行事へ参加する。 ②-2 ESD部会の活動を周知し、SDGsへの理解を生徒に促す。	1-1 研究協議会のアンケート活用状況。 1-2 改訂版CAN-DOリストを作成したか。 2-1 ユネスコスクールに関する行事への参加状況及び生徒の感想。 2-2 生徒アンケートの国際理解教育の項目で肯定的回答80%を達成したか。	①-1・2 改訂した「CAN-DOリスト」を基に、研究協議会で文部科学省教科調査官の助言をいただいた。また、近隣の学校からも多数参加があり、多くの感想や助言をいただき有意義な研究協議会となった。 ②-1・2 ESD関係の行事にも生徒が積極的に参加することができた。また、生徒アンケートの国際理解教育の項目で、肯定的回答の割合80%以上を達成した。	①-1・2 作成した「CAN-DOリスト」は毎年見直すこととし、生徒の実態に合ったものに改訂していく。 ②-1・2 今後SDGsについてもアンケート項目を設定したい。	①-1・2 小学校も含め、英語教育については現在の大きな教育課題となっている。国際高校としてこれからも他校をリードする役割を担ってほしい。 ②-1・2 生徒アンケートの国際理解教育の項目で肯定的回答の割合が高いのはさすがである。普段の取組の成果が表れている。	①-1・2 今後も文部科学省や県の事業等を積極的に行い、英語教育のモデル校として研鑽を積みたい。 ②-1・2 SDGsについては、「総合的な探求の時間」等も活用しながら、教科横断的に取り上げていけるよう工夫したい。